

§ 幻夢世界の真相

- 1) 紋章を授からない者がいる理由
 - ・紋章を授けるのは、運命神一人が全て行っている。
 - ・初期の頃は人口が少なかったため対応できていたが、現在では人口増加に伴い、運命神が生まれる全員を見通すことができなくなりつつある。そのため、運命神が見落として／見過ごしてしまった者たちは、紋章を授かることができない。ただし、紋章を授かっていなくとも、後からその行動が運命神の目に留まって、紋章を授けられるケースも存在する。
 - ・種族毎に固定だと思われている紋章と違う紋章が授けられることがある、これは人口増加と同様の理由で、間違っって授けてしまったものである。
- 2) 幻夢世界の言語
 - ・幻夢世界は、唯人族をはじめとした多数の知的種族が存在するが、それら全ての種族は同じ言語で話をしている。これは運命神が世界を見聞きするために、最初から言語を統一したことがその理由である。
 - ・言語が統一されているといっても、種族毎に格言、言い回し、例え、固有名詞等には差があるため、種族が違っていると通じない方言のような部分も存在する。
 - ・識字率は低い。王侯貴族はほぼ100%だが、それ以外は一部の商人だけがまともに読み書きできる。例外として、グレンフィッチ王国は学校が存在するため、それに通うことができた者の識字率が高い。
 - ・会話言語が統一されている反面、文字言語は種族毎に違う部分が多い。同じ言葉でも唯人族とエルフでは、書き文字が異なるということがよくある。そもそも獣人族、人獣族、精霊族などは文字を重視しないため、絵や記号が文字の変わりとして使われることが多い。
- 3) 幻夢世界の気候
 - ・幻夢世界には太陽が1つ、月が3つあるが、これによる気候変動や潮の満ち引き等は存在しない。この世界は惑星上ではなく、球面上でもない。そのため、ある程度の高度に到達しても水平線は真っすぐで、丸くならない。
 - ・幻夢世界の各地では、気候がほとんど変動しない。温暖な所はずっと温暖で、寒冷地はずっと寒い。この気温の分布は、実は火山によるものである。3つの火山を持つ帝国は、常に真夏のような気温である。そして地脈と周辺に発生する熱を海流が運ぶので、下流に相当する地域も暑い。そして火山から遠く離れた地域は寒い。
- 4) 迷い人の真相
 - ・迷い人は、自身がその世界から逃げ出したいと願い、それが運命神に届いたことによって、幻夢世界に送られたというのが、転移についての真相である。
 - ・迷い人に記憶障害が多いのは、「元の世界から逃げ出したい」→「元の世界を忘れたたい」という願望がトリガーになっているからである。
 - ・記憶障害の程度は、その元の世界をどれだけ拒絶しているかによる。
 - ・幻夢世界において、迷い人が元の世界へ帰還したという記録は無い。迷い人は

「元の世界から逃げ出したい」という願望を秘めているので、紋章を授かると幻夢世界に適応し、「元の世界に帰りたい」という思いを抱かなくなる。これが迷い人が帰還した記録が無い真相である。

5) 武具について

- この世界は、ばら撒かれた神々の破片の影響で、種族も文化も同時多発的に発生している。
 - 特に武具については、地球のように時代に合わせて変遷しておらず、発展も変化もほとんどない。これは紋章の力で武具が簡単に作り出せることと、紋章を使って戦闘した方が強いことがほとんどであるためである。
 - 武具と呼ばれるものは、大きく剣、槍、斧、弓、鎧、盾の6種類。特に剣は両刃の直剣で、長さも60～90cmのものがほとんどである。例外的に、迷い人の知識を取り入れているグレンフィッチ王国では、日本刀のような曲刀、両手剣などが作成されているが、ほとんど流通していない。
-
-